

病害虫情報(第1号)4月予報

令和7年3月28日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463-58-0333
ホームページ <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

【内容】

- I 4月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例 1
【水稻、コムギ、カンキツ、ナシ、ウメ、チャ、促成トマト、促成・半促成キュウリ、促成イチゴ、露地トマト、露地キュウリ、ナス、春キャベツ】
II 4月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 10

- 農薬を使用する際は、必ずラベルの記載事項を確認し、遵守すべき基準を守り、飛散防止に努めましょ
う。
○ 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、令和7年3月25日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 4月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例

【水 稻】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
ばか苗病	—	○	【塗沫処理(30ml/乾燥種籾1kg)】 (予・治) テクリードCフロアブル [浸種前,1回] 7.5倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 100倍
いもち病	—	○	(予・治) ヘルシード乳剤 [浸種前,1回] 7.5倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 100倍
イネシンガレ センチュウ	—	○	【種子浸漬(24時間浸漬)】 (予・治) テクリードCフロアブル [浸種前,1回] 200倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 1,000倍 (予・治) ヘルシード乳剤 [浸種前,1回] 200倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 1,000倍 等
苗立枯病	—	○	【育苗箱施薬】 (予・治) タチガレエースM粉剤 [は種前,1回] 6~8g/箱 + (予) ダコニール粉剤 [は種前,1回] 15~20g/箱 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【コムギ】

生育:並(普及指導部:ゆめかおり、さとのそら)

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
赤かび病	—	○	(予・治) トップジンM水和剤 [14日,3回(出穂期以降は2回)] 1,000~1,500倍 (予・治) トリフミン水和剤 [14日,3回] 1,000~2,000倍 等 ❖ 出穂期以降に高温と降雨が続いたり、日照時間が少ないなどの多湿条 件で感染しやすい。 ❖ 薬剤は、「開花始め~開花期」と「開花期の7日後」の2回散布するのが 効果的である。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病虫害情報

(R7・No.1)

神奈川県農業技術センター

【カンキツ】 生育:やや早(足柄地区事務所研究課:普通温州)

病虫害名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
そうか病	やや多	○	(予) イデクリーン水和剤 [ー,ー] 400～800倍 + クレフノン [ー,ー] 200倍 (予) デランフロアブル [30日,3回] 1,000倍 等 ❖ 前年発生したほ場では、新芽が出揃った4月上旬に必ず散布する。 ❖ イデクリーンは、マシン油乳剤との混用および14 日以内の近接散布を避ける。
かいよう病 (中晩柑類)	並	○	(予) コサイド3000 [生育期,ー] 2,000倍 +クレフノン [ー,ー] 200倍 (予) ICボルドー66D [ー,ー] 25～200倍 + アビオンーE [ー,ー] 500～2,000倍 (予) イデクリーン水和剤 [ー,ー] 400～800倍 + クレフノン [ー,ー] 200倍 等 ❖ 3月中下旬に農薬散布していない場合は、4月上中旬に防除する。 ❖ イデクリーンとICボルドー66Dは、マシン油乳剤との混用および14 日以内の近接散布を避ける。
ミカンハダニ	多	○	マシン油乳剤 (97%, 98%) 等 ❖ マシン油乳剤は商品によって希釈倍数・使用時期が異なるので、ラベルの記載に従うこと。 ❖ 冬期に防除しなかった園は、発芽後に必ず防除する。
ミカンナガタマムシ	ー	△	❖ 被害の確認される園では、成虫発生源となるため、被害の激しい樹を伐採し、園外で適切に処分を行う。 ❖ 詳細は令和6年12月20日発表の「病虫害発生予察注意報 第3号」を参照する。 ❖ 成虫発生後の防除について、4月中旬に防除情報を発表する予定。

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【ナシ】

病虫害名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
赤星病	ー	○	【開花前】 (予・治) インダーフロアブル [7日,3回] 赤星病:8,000～12,000倍 黒星病:5,000～12,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [14日,5回] 黒星病:1,500倍 【落花期】 (予) トレノックスフロアブル [30日,5回] 500倍 (予・治) スコア顆粒水和剤 [14日,3回] 2,000～4,000倍 等 ❖ 黒星病の花そう基部発病部は、見つけ次第取り除く。
アブラムシ類	ー	○	ダイアジノン水和剤34 [14日,6回] 1,000～1,500倍 等
ニセナシサビダニ	ー	○	モベントフロアブル [14日,3回] 2,000倍 等 ❖ モベントフロアブルは新梢の展開葉から吸収されるので、葉が2～3枚展開したのを確認して散布する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(R7・No.1)

..... 神奈川県農業技術センター

【ウメ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
かいよう病	—	○	(予・治) マイコシールド [21日,4回] 1,500倍 等 ❖ 強風雨時に感染するので、多発園では降雨前の散布を心掛ける。
黒星病	—	○	(予) デランフロアブル [14日,2回] 1,500～2,000倍 (予・治) ストロビードライフロアブル [7日,3回] 2,000～3,000倍 等
カメムシ類	並	△	スカウトフロアブル [前日,3回] カメムシ類:2,000倍、アブラムシ類:2,000～3,000倍 アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 ダントツ水溶剤 [前日,3回] 2,000～4,000倍 等
アブラムシ類	—	○	❖ PPV(ウメ輪紋ウイルス)の感染が県内の一部の地域で確認されており、新たな感染を防ぐためにはアブラムシ類の防除が重要である。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【チャ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
カンザワハダニ	並	○	バロックフロアブル [14日,1回] 1,000～3,000倍 ダニゲッターフロアブル [7日,1回] 2,000倍 等 ❖ 3月に上記薬剤を散布しなかったほ場では防除すること。
ツマグロアオ カスミカメ	—	△	【4月上中旬】 キラップフロアブル [7日,1回] 2,000倍 アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [7日,2回] 2,000倍 等 ❖ 例年多発するほ場では防除する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(R7・No.1)

..... 神奈川県農業技術センター

【促成トマト】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント												
灰色かび病	並	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期,ー:ダクト内投入] 灰色かび病:7.5～15g/10a/日												
葉かび病	－	○	(予・治) ファンタジスタ顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000～3,000倍 (予・治) ベルコートフロアブル [前日,3回] 2,000～4,000倍 等 ❖ 発病部位は速やかに取り除き、ほ場外で適切に処分する。 ❖ 灰色かび病対策には、葉先の枯れた部位や花がらをこまめに取り除くとともに、換気等により施設内の湿度低下に努める。また、不要な下葉は整理し、風通しをよくする。												
うどんこ病	並	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期,ー:ダクト内投入] 15g/10a/日 (予・治) パルミノ [前日,5回] 2,000倍 (予・治) ベルコートフロアブル [前日,3回] 2,000～4,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日,ー] 300～600倍 (治) ベミデタッチ [前日,ー] 500倍 等 ❖ 近年、4月以降にうどんこ病の発生が目立つため、病斑が確認される前から予防的に薬剤散布を行う。												
コナジラミ類 タバココナジラミ オンシツコナジラミ	並 並	○ ○	ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500～5,000倍 マッチ乳剤 [前日,4回] コナジラミ類:2,000倍、アザミウマ類:1,000～2,000倍												
アザミウマ類	やや少	○	コルト顆粒水和剤 [前日,3回] コナジラミ類:4,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,ー] コナジラミ類:300倍 ベミデタッチ [前日,ー] コナジラミ類:500倍 等 ☞ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。 ❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除を徹底する。 <table><tr><th>発生するウイルス病</th><th>媒介する害虫</th></tr><tr><td>CMV等(モザイク病)</td><td>アブラムシ類</td></tr><tr><td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td><td>コナジラミ類</td></tr><tr><td>ToCV(トマト黄化病)</td><td></td></tr><tr><td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td><td>アザミウマ類</td></tr><tr><td>CSNV(トマト茎えそ病)</td><td></td></tr></table> ❖ 施設開口部(出入口、天窗等)には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、害虫の侵入防止に努める。なお、赤色防虫ネット(クロスレッド)はより高い防虫効果が期待できる。 ❖ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。 ❖ 黄色・青色粘着板を設置し、害虫の発生消長を把握する。 ❖ ウイルス病発病株は抜き取り、施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

マルハナバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤:コルト顆粒水和剤(セイヨウオオマルハナバチ:3日、クロマルハナバチ:7日)、ディアナSC(1日)、パルミノ(クロマルハナバチ:1日(ミニトマトでの例))

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病虫害情報

(R7・No.1)

..... 神奈川県農業技術センター

【促成・半促成キュウリ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖ 防除のポイント										
べと病	やや少	○	(予) アリエッティ水和剤 [前日,3回] 400～800倍 (予・治) ゴーベックエンテクタSE [前日,2回] 4,000倍 ☞ ゴーベックエンテクタは混合剤。総使用回数に注意する。 (治) エトフィンフロアブル [前日,4回] 1,000倍 等 ❖ 風通しを良くし、適切な施肥管理を行う。										
うどんこ病	やや少	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期,－] 1,000～2,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日,7回] 2,000倍 (予・治) スコア顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000倍 (予・治) ショウチノスケフロアブル [前日,2回] 2,000倍 ☞ ショウチノスケは混合剤。総使用回数に注意する。 等										
灰色かび病	並	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期,－] 灰色かび病:1,000～2,000倍										
菌核病	－	○	(予) セイビアーフロアブル20 [前日,3回] 1,000～1,500倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日,7回] 2,000倍 等										
アブラムシ類	並	○	ベストガード水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:1,000～2,000倍										
コナジラミ類			ミナミキイロアザミウマ:1,000～2,000倍 ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500～5,000倍										
オンシツコナジラミ	並	○	コルト顆粒水和剤 [前日,3回]										
タバココナジラミ	並	○	アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍										
アザミウマ類			グレーシア乳剤 [前日,2回] コナジラミ類、アザミウマ類:2,000倍 等										
ミナミキイロ アザミウマ	並	○											
ミカンキイロ アザミウマ	やや多	○											
			❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除を徹底する。 <table><tr><th>発生するウイルス病</th><th>媒介する害虫</th></tr><tr><td>CMV等(モザイク病)</td><td>アブラムシ類</td></tr><tr><td>CCYV(退緑黄化病)</td><td>コナジラミ類</td></tr><tr><td>BPYV(キュウリ黄化病)</td><td>コナジラミ類</td></tr><tr><td>MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td><td>アザミウマ類</td></tr></table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)	コナジラミ類	MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類												
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類												
BPYV(キュウリ黄化病)	コナジラミ類												
MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類												
			❖ 施設開口部(出入口、天窓等)には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、害虫の侵入防止に努める。なお、赤色防虫ネット(クロスレッド)はより高い防虫効果が期待できる。										
			❖ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。										
			❖ 黄色・青色粘着板を設置し、害虫の発生消長を把握する。										
			❖ ウイルス病発病株は抜き取り、施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。										

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病虫害情報

(R7・No.1)

神奈川県農業技術センター

【促成イチゴ】

病虫害名	発生予報 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
灰色かび病	並	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期,ー] 1,000～2,000倍
うどんこ病	やや少	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期,ー:ダクト内投入] 灰色かび病:10～15g/10a/日、うどんこ病:15g/10a/日 (予) サンヨール [前日,6回] 灰色かび病:500倍、うどんこ病:500～1,000倍 (予・治) ロブラール水和剤 [前日,4回] 灰色かび病:1,500倍 (治) カリグリーン [前日,ー] 灰色かび病:800倍、うどんこ病:800～1,000倍 (治) エコピタ液剤 [前日,ー] うどんこ病:100倍 (治) サフオイル乳剤 [前日,ー] うどんこ病:300倍 等 ❖ 灰色かび病の発病部位は速やかに取り除き、ほ場外で適切に処分する。 ❖ うどんこ病対策として、適宜古葉を除去し、風通しを良くする。
アブラムシ類	やや多	○	コルト顆粒水和剤 [前日,3回] 3,000～4,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 エコピタ液剤 [前日,ー] アブラムシ類:100倍、コナジラミ類:100～200倍 サフオイル乳剤 [前日,ー] アブラムシ類:300～500倍、コナジラミ類:300倍 等
コナジラミ類 オンシツコナジラミ タバココナジラミ	並 並	○ ○	グレーシア乳剤 [前日,2回] 2,000倍 マッチ乳剤 [前日,4回] 1,000～2,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等 ❖ グレーシア乳剤は天敵への影響が大きく、注意が必要である。
アザミウマ類	並	○	ダニオーテフロアブル [前日,2回] 2,000倍 エコピタ液剤 [前日,ー] 100倍 サフオイル乳剤 [前日,ー] 300～500倍 等 ❖ ダニオーテフロアブルは、銅を含む製剤との混用および近接散布に注意が必要である。必ず、ラベルの注意事項を確認すること。
ハダニ類	やや多	○	

【防除要否】◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
【使用時期】「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

ミツバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤:エコピタ(1日)、コルト(使用を避ける)、グレーシア(セイヨウミツバチ:翌日導入可能)、ロブラール(1日)、モベント(翌日放飼可能)

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病虫害情報

(R7・No.1)

..... 神奈川県農業技術センター

【露地トマト】

病 害 虫 名	発 生 予 報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント												
アブラムシ類	—	○	【育苗期:粒剤施用】 ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] アブラムシ類、コナジラミ類:1～2g/株 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] コナジラミ類:1～2g/株 【育苗期後半～定植時:粒剤施用又は灌注】 プリロツソ粒剤オメガ [育苗期後半～定植時,1回:株元散布] 2g/株 ベリマークSC [育苗期後半～定植当日,1回:灌注] 原液25mlを10～20Lに希釈/400株 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 【定植時:粒剤施用】 モスピラン粒剤 [定植時,1回:植穴土壌混和] アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株 【育苗期～定植後:散布】 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 ベストガード水溶剤 [前日,3回] 1,000～2,000倍 マッチ乳剤 [前日,4回] コナジラミ類:2,000倍 アザミウマ類:1,000～2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,ー] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍 ベミデタッチ [前日,ー] コナジラミ類:500倍 ☞ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。 ❖ 生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなるため、育苗期の害虫防除を徹底する。 <table><tr><th>発生するウィルス病</th><th>媒介する害虫</th></tr><tr><td>CMV等(モザイク病)</td><td>アブラムシ類</td></tr><tr><td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td><td>コナジラミ類</td></tr><tr><td>ToCV(トマト黄化病)</td><td></td></tr><tr><td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td><td>アザミウマ類</td></tr><tr><td>CSNV(トマト茎えそ病)</td><td></td></tr></table> ❖ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。	発生するウィルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウィルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															
コナジラミ類	—	○													
アザミウマ類	—	○													

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(R7・No.1)

..... 神奈川県農業技術センター

【露地キュウリ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント										
アブラムシ類	—	○	【育苗期:粒剤施用】 ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] アブラムシ類:1g/株、コナジラミ類:1～2g/株 【育苗期後半～定植時:粒剤施用又は灌注】 ブリロソソ粒剤オメガ [育苗期後半～定植時,1回:株元散布] 2g/株 ベリマークSC[育苗期後半～定植当日,1回:灌注] アブラムシ類:原液25mlを2～20Lに希釈/400株 コナジラミ類、アザミウマ類 :原液25mlを10～20Lに希釈/400株 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 【定植時:粒剤施用】 アドマイヤー1粒剤 [定植時,1回] アブラムシ類、アザミウマ類:1～2g/株:植穴又は株元土壌混和 コナジラミ類:2g/株:植穴土壌混和 モスピラン粒剤 [定植時,1回:株元散布] アブラムシ類:0.5～1g/株 【育苗期～定植後:散布】 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 ベストガード水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:1,000～2,000倍 ミナミキイロアザミウマ:1,000～2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍 ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500～5,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,－] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍 等 ❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除を徹底する。 <table><tr><th>発生するウイルス病</th><th>媒介する害虫</th></tr><tr><td>CMV等(モザイク病)</td><td>アブラムシ類</td></tr><tr><td>CCYV(退緑黄化病)</td><td>コナジラミ類</td></tr><tr><td>BPYV(キュウリ黄化病)</td><td></td></tr><tr><td>MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td><td>アザミウマ類</td></tr></table> ❖ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)		MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類												
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類												
BPYV(キュウリ黄化病)													
MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類												
コナジラミ類	—	○											
アザミウマ類	—	○											

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病虫害情報

(R7・No.1)

..... 神奈川県農業技術センター

【ナス】

病虫害名	発生予報 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
アブラムシ類	—	○	【育苗期:粒剤施用】 ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] アブラムシ類:1g/株、コナジラミ類:1～2g/株 【育苗期後半～定植時:粒剤施用又は灌注】 ブリロッソ粒剤オメガ [育苗期後半～定植時,1回:株元散布] 2g/株 ベリマークSC [育苗期後半～定植当日,1回:灌注] 原液25mlを10～20Lに希釈/400株 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 【定植時:粒剤施用】 ダントツ粒剤 [定植時,1回:植穴処理土壌混和] アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株 【育苗期～定植後:散布】 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 ベストガード水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:1,000～2,000倍 ミナミキイロアザミウマ:1,000～2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,ー] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍
コナジラミ類	—	○	
アザミウマ類	—	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【春キャベツ】

病虫害名	発生予報 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
菌核病 【横浜・藤沢地区】 【三浦半島地区】	並 並	○ ○	(予・治) ベルケート水和剤 [14日,3回] 1,000倍 (予・治) トップジンM水和剤 [3日,2回] 1,000～1,500倍 等 ❖ 菌核病は、株元まで薬液が届くように早い時期からの予防に努め、発病株は早期にほ場外で処分する。
コナガ 【横浜・藤沢地区】 【三浦半島地区】	並 やや少	○ ○	スピノエース顆粒水和剤 [3日,3回] 2,500～5,000倍 グレーシア乳剤 [7日,2回] 2,000～3,000倍 エスマルクDF [発生初期(但し、前日),ー] 1,000～2,000倍 等
アブラムシ類 【横浜・藤沢地区】 【三浦半島地区】	並 やや多	○ ○	モスピラン顆粒水溶剤 [7日,5回] 2,000～4,000倍 アルバリン又はスタークル顆粒水溶剤 [3日,2回] 2,000～3,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] 3,000～4,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(R7・No.1)

..... 神奈川県農業技術センター

Ⅱ 4月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 4月の気象予報(気象庁 3月25日発表3か月予報)

〈天 気〉

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	30%	30%	40%
降 水 量	40%	30%	30%
日照時間*	30%	40%	30%

*3月20日発表1か月予報による。

(2) 4月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予 報 の 根 拠
		程度	平年比	
カンキツ	そうか病	—	やや多	1) 前年10月の巡回調査では、葉での発生が平年より多い。(+) 2) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
	かいよう病(中晩柑類)	少	並	1) 県予察ほ(根府川)では、春枝の越冬病斑の発生が平年並。(±) 2) 前年10月の巡回調査では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
	ミカンハダニ	少	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 県予察ほ(根府川)では、無防除区で発生が平年より多く(+)、慣行防除区で発生が平年よりやや少ない(—)。 3) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
ナシ	黒星病	少	並	1) 前年9月の巡回調査では、徒長枝での発生は平年並(±)、短果枝では平年よりやや少ない(—)。 2) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
果樹全般	カメムシ類	—	並	1) 落葉内のチャバネアオカメムシ成虫越冬数は、平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)のチャバネアオカメムシ成虫越冬数は、平年よりやや少ない。(—) 3) カンキツ枝の叩き出し調査におけるツヤアオカメムシ越冬成虫数は、平年より少ない。(—) 4) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
チャ	カンザワハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年よりやや少ない。(—) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年並。(±) 4) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
 「予報の根拠」..... (+): 多発要因 (—): 少発要因

病害虫情報

(R7・No.1)

..... 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
促成トマト	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発生が過去6年平均と同程度。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
	タバココナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
	アザミウマ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
促成・半促成キュウリ	べと病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は、平年並。(±) 3) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
	タバココナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
	ミナミキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
	ミカンキイロアザミウマ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」..... (＋): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(R7・No.1) ・・・・ 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
促成イチゴ	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。 (－) 2) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は、 平年並。(±) 3) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。 (－) 2) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
	タバココナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。 (－) 2) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
	アザミウマ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
	ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
春キャベツ (横浜・藤沢)	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
	菌核病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
	コナガ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。 (－) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、横浜、伊勢 原、県予察ほ(上吉沢)ともに平年並。(±) 3) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は、 平年並。(±) 3) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(R7・No.1)

..... 神奈川県農業技術センター

三浦半島地区野菜

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
春キャベツ	灰色かび病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
	菌核病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
	コナガ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、県予察ほ(三浦)ともに平年よりやや少ない。(－) 4) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への飛来量は、平年より多い。(＋) 3) 気温は平年並、降水量は平年並の予報。(±)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」..... (＋): 多発要因 (－): 少発要因

(別表)
耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

★カンキツ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー、ファンタジスタ)
 - QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
 - 単剤あるいはSDHI剤との混合剤(ナリア)の場合:1年1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

★ナシ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
 - QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
 - 単剤あるいはSDHI剤他との混用の場合:1年2回
 - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
 - 単剤あるいはQoI剤他との混用の場合:1年2回

★ウメ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター10、ストロビー)
 - 単剤あるいはその他殺菌剤との混用の場合:1年2回

★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロボーズ、ベトファイター)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(サブロール、スコア、トリフミン)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(テーク、パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回

★イチゴ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(スコア、トリフミン、ラリー)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回